

平成7年度  
(1995)  
第35回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

会場となった釧路市民テニスコートは、16面の全天候型砂入り人工芝コート、照明も完備され、道内一のコートといえる。

男子団体戦は予想通り、抜群の強さで札幌藻岩高校の4年連続、16回目の優勝となった。第3位に入った旭川東、旭川東栄の両高校の健闘もすばらしいものであった。

旭川東高校は準々決勝で激戦の末、札幌支部第3位の札幌南陵をくだし、準決勝の札幌藻岩高校戦でも互角の打ち合いをし、旭川支部のレベルの高さを示した。同じく、旭川東栄高校も、札幌支部第2位の札幌第一高校を破り、準決勝で札幌拓北高校に1対2と惜敗したが、ブロックでない実力での3位入賞である。

女子団体戦も予想通り、札幌清田高校の4年連続12回目の優勝となった。成長著しい函館白百合高校も、札幌2・3位の札幌稲雲、札幌平岡高校をくだして、札幌清田との決勝戦となったが、安定したダブルスを持つ札幌清田には全く歯が立たなかった。

男子個人戦シングルスは高松（札幌藻岩）の圧勝に終わった。2位の杉村（札幌藻岩）はまだ1年で今後が期待される逸材である。第3位に入った佐藤（函館中部）も札幌支部の選手を破り、良く健闘した。

女子個人戦シングルスは、予想通り松永（札幌新川）、高崎（東海大四）の決勝となり、安定度の高い松永の優勝となった。また、西野、首藤の善戦も特徴的であった。

男子個人戦ダブルスは高松・伊藤組（札幌藻岩）の圧勝かと思われたが、前評判を覆し、第2シード藤原・杉村組（札幌藻岩）が優勝、第3位に旭川支部と函館支部の代表が入り、両支部のレベル向上を印象づけました。

女子個人戦ダブルスは、第1第2シードの札幌支部が敗れ、函館支部同士での決勝となった。函館支部第2位の勝村・杉本組（函館東）が粘りを発揮して接戦、激戦を征した。スバラシイ、オメデトウの二言のみである。全般的に、札幌支部他支部とのレベルが接近してきたことが、大きな特徴となった。

## 【 全国大会 】

昨年の富山市での猛暑とは異なり、しのぎ易い鳥取大会となった。

男子団体戦は、昨年ベスト4に入った札幌藻岩高校は、1回戦不戦勝後、2回戦は奈良の信貴ヶ丘高校に3対0と圧勝した。3回戦は第シードの宮崎の佐土原高校を、高松の強さを遺憾なく発揮して、これも圧勝。ベスト16を確保した。ベスト8入りをかけた、第4回戦は、第2シードの千葉の渋谷教育学園幕張高校との対戦となった。ダブルスとシングル1が同時展開の試合となり、ダブルスが早く負けが決まり、その後シングルス2がシングルス1の隣に入って試合が展開された。シングル1に出場した高松伸吾は、劣勢をはねのけて第3セットでリードを奪い、そのまま勝利するかに見えたが、隣の伊藤の方が試合テンポが速く負けとなった。高松の方が早く勝利を収めていたならば、伊藤も後半盛り返してきたので、勝てたのではないかと、甘い予想もできる内容であった。冬のハンディを乗り越えての、ベスト8は立派な成績である。

女子団体戦は、札幌清田高校の健闘もむなしく弘前学院聖愛高校に惜敗した。清田が初回戦で敗退したのは久しぶりのことであり、男子に比べ、女子の方が多少レベルダウンをしていることの表れかと感じている。

男子個人戦は、シングルスが3人全員3回戦に進み高松伸吾がベスト16に入った昨年に較べると、4人出場して3人が1回戦敗戦。多少見劣りする結果となってしまった。高松も昨年のベスト16には手が届かなかった。多少残念。昨年ベスト8だったダブルスもベスト16止まりという結果となった。

女子もシングルスに出場した松永（札幌新川）のみが2回戦に進出したものの、他は1回戦敗退となり北海道の女子のレベルアップが急務であることを痛感した。

北海道で育った中学生が、本州の強豪高校に入学し、活躍するケースが目立っている。優秀な人材を育てるシステムを道内で創り、道内の高校に入学して、北海道代表として活躍することを期待したい。

（ 専門委員長 横山 俊之 ）

## 優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

僕達藻岩高校男子テニス部は、今年全道大会で優勝を成し遂げ4年連続16回目の優勝という成績を残し、全国へのキップを手に入れました。

僕達は、北海道で優勝して当たり前というプレッシャーを乗り越え、こうしてまたすばらしい結果を残すことができました。しかしこの優勝の裏には、言葉では表せないような努力がありました。しかしその努力があったからこそ、自分達に自信を持ち、僕達に挑戦してくる他のチームを破ることができたと思います。

しかし僕たちにとってのこの全道大会は、全国で勝つための通過点にすぎません。僕達藻岩高校テニス部の本当の戦いは、全国大会からだと思い、緒方先生について練習行ってきました。その甲斐あって、去年は全国団体第3位といういい結果を残すことができました。けれども、その成績は過去のものと思い、ここまで練習してきたのです。去年よりは

多少戦力は落ちるかもしれないけれど、そこはもち前の団結力と気合いで乗り切り、昨年以上の成績を残せるよう、悔いが残らないよう全国の舞台で頑張りたいです。

( 札幌藻岩高校 主将 高松 伸吾 )

## 優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

私達は、4年連続13回目の優勝を果たすことができました。そのために今まで勝ちたいという気持ちだけで、勝つための努力をし、汗と涙を流してきました。

団体戦全道優勝をし、全国大会への切符を手に入れた今、誰一人としてはずすことの出来ないチームワークの大きな力を感じ、結果として先輩方が成しとげてきた伝統を引き継ぐことが出来たのは一人一人の頑張りで、これは、何ものにもかえがたい自信につながりました。

私達は技術の上では、まだまだこれからというものだったのですが、それぞれが今自分がやれるすべてのことを生かし、個性を最大限に発揮して徹底してやり通すという精神力で乗り越えてカバーし闘うことが出来ました。

そしてこのような成績を残せたのも、私達にいつもかけがえのないパワーを送り続けてくださった緒方先生の御指導や家族やOBの方々のお陰です。言葉では言い表せないほどの様々な感謝の気持ちであふれています。

勝ち負けよりも大切なものがあると先生が教えて下さいました。この瞬間をがむしゃらに悔いることのないように必死になってやることだと身を持って分かりました。そうしたら必ず結果はついてきます。

後輩たちもこのすばらしい環境の中、自分を信じ本気になって挑戦し続けていってほしいと思います。

(札幌清田高校 主将 三浦 明美)

全国高校総体 (第85回全国高等学校庭球選手権大会) 鳥取

8月1日～7日

鳥取県立布勢総合公園テニスコート

国立鳥取大学テニスコート

男子 個人戦シングルス	優勝	石井 弥起 (堀越)
	準優勝	岩見 亮 (渋谷教育学園幕張)
女子 個人戦シングルス	優勝	井上 青香 (浦添)
	準優勝	井上摩衣子 (浦添)
	第3位	占部 奈美 (富士見丘)